

**遺伝子組換えトウモロコシ(実態調査)**

平成 13 年 4 月より、遺伝子組換え食品の安全性審査と表示が義務づけられています。現在、日本では“じゃがいも・大豆・てんさい・トウモロコシ・なたね・綿・アルファルファ”の 7 作物 75 品種の安全性が確認され、食品として商品化が可能になっています。

トウモロコシについては、現在 Mon810,GA21 及び Bt11 など 25 品種について、日本では安全性が審査され流通が認められています。CBH351, Bt10 については、まだ安全性が確認されていません。トウモロコシの国内生産は少なく、大部分を米国からの輸入に頼っているため、組換えトウモロコシも流入していると考えられます。

平成 17 年、米国で組換えトウモロコシ Bt10 の種子が誤って栽培され、流通した事例が判明しました。日本でも輸入時の検査で米国産の飼料用トウモロコシから Bt10 が検出され、積戻しの措置がとられました。

今回、市販のトウモロコシ加工品 26 検体について、組換え遺伝子の混入実態を調査しました。安全性未審査の組換え遺伝子は、CBH351, Bt10 の 2 品種について、安全性審査済みの組換え遺伝子は、Mon810,GA21,Bt11,T25 及び Event176 の 5 品種について検査しました。

結果を表に示します。No.1 トウモロコシ半加工品は、トルティーヤや菓子の原料に使われるトウモロコシ粉を、No.4 その他の検体は、コーンスープ中のトウモロコシ粒などを試料としました。

| No. | 種 類        | 検体数 | 安全性未審査<br>CBH351, Bt10 | 安全性審査済み<br>Mon810,GA21,Bt11,T25, Event176 |      |           |  |
|-----|------------|-----|------------------------|---|------|-----------|--|
|     |            |     |                        | 検知数 (検出率%)                                |      | 混入率 (%) * |  |
|     |            |     |                        | 平均  | 範 囲  |           |  |
| 1   | トウモロコシ半加工品 | 5   | 0 (0)                  | 4 (80)                                    | 0.22 | 0.20~0.24 |  |
| 2   | コーンスナック菓子  | 15  | 0 (0)                  | 12 (80)                                   | 0.47 | 0.02~1.7  |  |
| 3   | ポップコーン     | 2   | 0 (0)                  | 0 (0)                                     | (-)  | (-)       |  |
| 4   | その他        | 4   | 0 (0)                  | 2 (50)                                    | 1.7  | 1.4~1.9   |  |
| 計   |            | 26  | 0 (0)                  | 18 (69)                                   | 0.54 | 0.02~1.9  |  |

\* 混入率の検査法は、トウモロコシ穀粒及びトウモロコシ半加工品に限られていますので、No.2~4 の混入率は目安の値を示しています。

\* 混入率の平均値は、組換え遺伝子を検知した検体の平均を示しています。

安全性未審査の組換え遺伝子 CBH351, Bt10 は、いずれの検体からも検知されませんでした。安全性審査済みの組換え遺伝子は、約 7 割の検体から検知されましたが、混入率は非意図的混入率の許容値 5%と比べいずれも低い値であり、適正に分別生産流通管理されているものと考えられます。

トウモロコシの種類・用途いろいろ

デント種： 飼料など

フリント種： 飼料, 工業原料など

スイート種： 缶詰, 生食用, 加工食品材料など

ポップ種： ポップコーン菓子

★ 組換えトウモロコシの多くはデント種トウモロコシです

